



みらい

編集・発行 神奈川県助産師会 広報委員会 横浜市中区富士見町3-1 総合医療会館6階
Tel 045(262)4201 Fax 045(348)9020 (受付時間 月～金 9:00～17:00)
ホームページ <http://kanagawa-josanshi.com/> メール mw-kngw@gold.ocn.ne.jp

助産師はこれからどこへ向かうのか？

公益社団法人神奈川県助産師会
会長 村上明美



日本中のあちこちで平成のカウントダウンが始まりました。皆様にとって「平成」はどのような時代だったでしょうか。合計特殊出生率（出生数）をみると、平成元年は1.57（126.4万人）、平成10年は1.38（120.3万人）、平成20年は1.37（109.1万人）、平成29年は1.43（94.6万人）でした。合計特殊出生率は平成17年の1.26を最低に漸増していますが、出生数は現在も減り続けています。

平成9年に母子保健事業の実施主体が市町村に一元化されて以降、地域で一貫した母子保健サービスが提供されるようになりましたが、少子化対策の「エンゼルプラン（平成7年）」、「新エンゼルプラン（平成12年）」は出生率の低下に歯止めをかけることはできませんでした。その後、国は「少子化対策」から「子ども・子育て支援」へと方向を転換し、「子ども・子育て応援プラン（平成17年）」や「子ども子育てビジョン（平成22年）」が出されました。現在は、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援ができるよう、妊娠・出産包括支援事業が展開されています。

こうやって振り返ると、平成は少子化に翻弄され続けた時代といえるでしょう。そして、課題は全く解決されないまま、新しい時代を迎えようとしています。今後、出生数は減少の一途をたどります。子どもが生まれない時代に助産師はどのように専門性を発揮すべきでしょうか。

平成が終わる今こそ、助産師という専門職の今後の在り方を真剣に考える時です。助産師の皆さま、共に集い、語り合ひましょう。

未来戦略

未来戦略担当理事 布施明美

神奈川県助産師会未来戦略の目指す姿は、女性の各ライフサイクルにおいて自分自身の健康を維持し、充実した生き方ができる事です。近年、母性を取り巻く様々な社会問題が生じ、命のかかわる事象、産褥期の鬱や自殺そして子どもの虐待などが報告されています。このような社会現象を解決するためには、思春期より健康教育や人生プラン、成熟期には出産子育てのきめ細やかな支援をし、満足感のある感動的な出産を提供し、愛着に満ちた楽しい子育てと温かい家庭の中で子どもたちが健やかに育ち、親も共に育つサイクルが回る事です。

一方で死産や不妊などで悩む女性も増えています。女性の置かれている状況を丸ごと地域で支援する使命が助産師の役割と考えます。未来に向け、助産師が手を取り合い邁進していきます。



「本当のお産の感動を味あわせてあげたい」 ～臨床と学生のパイプ役である教職と臨床に54年～ 熊澤美奈好先生インタビュー

質問：助産師になるきっかけはなんですか？

熊澤：看護学校の先生に勧められて、日本赤十字産院助産婦学院に入学を決めました。

質問：教職に就こうと思った理由は？就いたばかりの頃はどのような状況でしたか？

熊澤：恩師の招きを受けて、新たに開設される神奈川県衛生看護専門学校の専任教員となりました。第1期生は8名、しかも新卒1名を除いてはすべて社会人で、私よりはるかに年上の学生ばかりでした。そんな無力な私を社会経験豊かな当時の学生たちは、かばい勇気づけてくれました。その後学生とともに学ぶことに意義を見出し、臨床施設の師長や指導者との人間関係がもてるようになるまでに、ほぼ10年の歳月を要しました。そして、いつの間にか21年という年月を神奈川県の子供と共に過ごしました。そして、日進月歩する臨床の真髄に触れることは困難であると実感し、臨床に戻りました。

質問：時代の変化とともに学生や、助産師教育の変化はありましたか？

熊澤：今も昔も学生が変わりはありません。一生懸命で健気だと思っています。教育での違いは昔は実践に力を入れていて、現在は判断力を身につける教育が変わってきています。ガイドライン、モニター、エコーなどに制約されすぎて、学生もガウン、マスク、ゴーグルなどに覆われて、「おめでとう」の笑顔も見せられない状況で、学生はかわいそうだと感じてしまいます。自然分娩が少なくなりましたが、本当のお産の感動を味あわせてあげたいと思っています。

質問：今後の助産師教育に期待することはなんですか？

熊澤：教員は臨床と学生をつなぐパイプ役であってほしいです。人間作り、場所作りが教員の大切な仕事だと思います。教員こそ、臨床をしっかりと分かっていて、臨床の感動を伝えて欲しいと思います。

取材当日は、神奈川県衛生看護専門学校の教え子たちによる、退職される熊澤先生への「感謝の会 in 横浜」が行われた日でした。お話を伺うことで、先生の学生、助産師教育への愛を感じる機会となりました。

熊澤先生、ありがとうございました。（野村、山田）



熊澤美奈好氏略歴

10余年の臨床経験を挟み、神奈川県衛生看護専門学校、三楽病院附属助産婦学院、亀田医療技術専門学校助産学科等教育現場に40余年従事。様々な助産師教育、講演、学会発表、雑誌投稿の活躍をへて、本年退職される。

事務局より

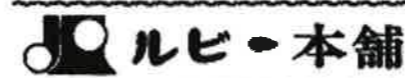
2019年度の年会費が2月25日に引き落としになります。前日までに、口座残高の確認をお願いします。口座の変更や転支部の予定のある方は、12月25日までに事務局へ連絡をお願いします。

編集後記

とわ助産院が10周年にあたり、特集を組んでみました。会員の皆様もぜひ足をお運びください。寒い年の瀬、よいお年をお迎えください。（野村）



各種はらまき ニット生地
千葉県野田市木間ヶ瀬 3292
tel04-7198-1313 fax04-7198-6117



会立助産院の紹介

とわ助産院

院長 山本年映



成り立ち



平成 31 年 6 月でとわ助産院は開設から 10 年となります。以前は鈴木助産院、その前は鈴木先生のお姉様の船橋助産院と、この鶴見の地で 40 年以上地域と歩んでいました。鈴木先生のどうしても助産院として残したいとお考えが強くあり、神奈川県助産師会で会立助産院を作ることとなりました。10 年前は分娩施設の不足問題もあり、社会貢献できると期待され、横浜市からの補助金も受けられることもできました。

一番苦労したのはやはり嘱託医、嘱託医療機関の問題でしたが何とか乗り越えて、いろいろなタイミングがそろったことも開院できた契機でした。そして無くない助産院になることを願って「永遠」をやさしくひらがなで『とわ』となりました。鈴木乙羽先生のお名前の“おとわ”という響きもいただきました。しっかり先輩たちの意思と、助産師魂を引き継いでいかなければと思いました。会員、学校、企業からの寄付や援助もたくさんありました。とわ助産院は会員のもので、そして会に支えられている安心の反面、恥じない助産院を作り上げなければならない責任の重さを感じながらなんとか 10 年。平成 28 年には助産所評価機構の認定を受けることもできました。次の世代にも引き継いでもらうべくもう少し頑張ります。

会員の方も、是非気軽に足を運んでください。

活動報告



10 年で 400 人を超える分娩を扱いました。リピーターも多く、4 人もとわで出産してくれた方もいます。母乳外来は年間延べ 400 件～500 件、ただ乳房を診るだけでなく育児をするお母さんを支援してきました。高齢出産が多くなり、社会の流れとともに分娩数は減少し、産後ケアがかなりの勢いで増えています。1 週間でどれだけの支援になっているのかと感じつつ、「来て良かった」の言葉に微力ながら役立っているのかなと思います。時代に即した助産院のあり方を考えなければなりません。



そして産後ボディケア、ベビーサインなどのクラスを行い、地域に密着した母子支援に心がけていきます。今後は母子だけでなく女性支援の視点から、思春期から更年期に至るまでのたくさんの女性で溢れる助産院になるよう計画していきたいと思えます。

また、助産師、看護師学生の実習も可能な限り受け入れ後輩育成に努めています。

来年度は 10 周年記念のイベントを計画しています。お楽しみに！



スタッフ紹介



初め二人の常勤でスタートし、分娩数が増加した平成 25 年には若いスタッフを一人増やしましたが、もっといろいろな経験をして戻ってきたいと一旦辞めました。又二人と非常勤の 4 人で頑張りましたが、産後ケアが増加する中、今年の 7 月から石田を迎え、3 人の常勤とともに今は非常勤のスタッフ 5 人も一生懸命務めてくれています。



後列中央が山本院長

とわの日の報告



平成 23 年より 10 月 8 日をとわの日として、助産院を開放し母子向けのイベントをしています。今年で 8 回目になりました。いつも人気なのが親子写真館です。撮影の前にはヘアアレンジメントをしてもらう親子も。皆さん素敵な写真が撮れていました。その他親子ヨガや手遊びや読み聞かせなどを取り入れました。また産後の体を大切にしておしく整体師による骨盤矯正体験を導入し大人気でした。NPO「はぐっと」の協力で見守りさんがいるので、お子様は預けてゆっくり施術を受けることができていました。毎年 80 組以上の親子が訪れてくれます。毎年 10 月の恒例行事として根付いていくようにしたいと思っています。



横浜市助産師会 助産院はなみずき

一般社団法人横浜市助産師会 会長 市川恵子

横浜市助産師会は、平成 30 年 5 月、前田いずみを院長として「助産院はなみずき」を設立しました。

分娩を取り扱わない助産所です。横浜市 18 区の中で一番出生数の多い港北区、新横浜駅から徒歩 10 分ほどのところにあります。

業務としては、主に母乳ケアを実施しています。今年の 1 月から横浜市で始まった訪問型母乳相談事業（アウトリーチ）の事業者にも登録しており、出生数が多いという地域が功を奏して母乳ケアの依頼が少しずつ増えてきています。

今後は、妊婦さん向けの沐浴教室を行っていく予定で計画中です。将来的には、日帰りで入院できるデイケア型の産後母子ケアを行っていきたく考えています。

住所：横浜市港北区新横浜 1-16-2 SE エトワール 201
電話：045-620-7332

